

## 「とやま農業未来カレッジ プレ講演会」講演等の概要

### 基調講演（講師：岸 康彦 日本農業経営大学校 校長）

#### 【講演要旨】

- 農業経営者に必要な4つの力として、判断・決断の出来る経営力、農業を実践する農業力、社会への適応・変革に対応する社会力、リーダーとして尊敬される人間力が必要。
- 日本の飲食費の消費額は全体では増えているが、農水産物は減少していることから、農業者には経営に対する資質が求められるこの時期に、とやま農業未来カレッジが作られるのは必然性がある。
- 日本農業経営大学校との比較からとやま農業未来カレッジの特色として、富山県での就農が前提であることは非常に明快。そのため教育の仕方が具体的になっており、例えば「県全体を実習ほ場とする」など地域性の高い研修機関である。
- そのうえ、更に経営を学びたい場合は、カレッジ卒業後に日本農業経営大学校への進学も考えて欲しい。

### パネルディスカッション

コーディネータ	酒井 富夫	富山大学教授
パネラー	穴田 甚朗	県JA中央会長
	鍋嶋 太郎	県農業法人協会 相談役
	前田 真一郎	県青年農業者協議会長
	河上 めぐみ	(有)土遊野 取締役
	須沼 俊英	県農林水産部長

#### 【主な意見】

##### 1 カレッジについて特に紹介しておきたいポイント

- 県内での就農希望者が本県の営農条件に即した農業の基礎的知識や技術を体系的に修得できる研修が平成27年4月から始まるほか、既に就農している若手農業者の研修ニーズに応え、1月から冬期間の短期研修を前倒しして実施する。
- 水稻の上位等級の改善や園芸振興に向けた農作物栽培の基礎的な知識・技術取得が体系的になされることや、販売力、経営能力の向上を図るため日本農業経営大学校等との情報交換や連携により、素晴らしい就農者が輩出されることを期待している。
- 法人経営者の観点から、技術的な事を知らない従業員を対象とする短期研修やカレッジの通年研修のカリキュラムでの、機械の演習・免許取得に期待している。
- 若手、一般の既に就農した者も参加できる公開講座や、入学してから翌春に向けて就農指導・相談も行われる体制に注目している。
- 農業を学ばず就農したが、こういうカレッジは若い人にとって必要と実感。カレッジで基礎技術のみならず経営や販売などの出口まで幅広い研修があるということで期待している。

## 2 実体験を踏まえた就農前研修の大切さ

- 農業高校、農業者大学校を経てから就農したが、過去に経験を積んでいないと現実との差に唖然とすると思う。就農前の研修メリットとして、知識としてしか学んでこなかったこと、未熟な考え方を鍛え直す良い機会となる。
- 基礎知識や経理を含めた経営知識があれば生産現場や販売において前に進めやすい。また、他の人と一緒に研修出来れば、相談相手や自信づくりにも繋がると思う。

## 3 新規就農者を受け入れる立場から就農前研修の意義

- 農業高校出身者ならば基礎勉強は十分されていると思うが、カレッジで実践を学ぶことや法人経営者の話、販売方法などの見聞を広げ、自分のやりたいことを見つけることは必要だと思う。
- 社会では能力を発揮しないと認められない。目的を持って入学することが大切。農業の難しさを就農前に会得することで自信や誇りに繋がる。地域における担い手、法人の主要な従業員として成長してくれると思っている。

## 4 カレッジ研修生への期待

- 女性農業者としては農家のお母さん達の知恵・視点に触れることも大切であり、できれば女性の仲間が増えるなど、農業の未来を明るくするカレッジになることを期待する。
- 同期に学んだ研修生は今後の農業を続けていく上での大きなモチベーションとなり、生産者としてスタートする前に、同じ職を目指す仲間を作ると、相談・知識を共有してくれる存在となる。

農作業の得手不得手はあると思うが、カレッジで生産の基礎を頭と体にたたき込んでおけば就農後に更に自分に何が足りないか経験を重ねると見えてくる。

カレッジ卒業生には、県青年農業者協議会の会員として仲間になって交流を深めてもらうことを期待する。
- 経営者として研修期間中も訪問し、カレッジの研修生を従業員として採用したいと考えている。卒業生がどんどん増えて、ブランドとなることを期待する。
- カリキュラムでは、就農相談、進路指導、就農準備もあり、研修生の出身地の農業関係者・団体がしっかりと支援することで就農後は本人の能力を伸ばすと同時に、地域の農業振興リーダーになってくれることを期待する。
- 農業者は、技術の専門家であり経営にも高い能力を要する。地域の環境や社会に貢献する産業であるという誇りを持って欲しい。

県内の仲間や同期生は得がたい財産であり仲間を作って欲しい。

現代は進学、就農、雇用、自営など、自分で自由に進路が決められる。若い方にはカレッジを利用して進路を選択されたい。自分で自分の進路を決めることを期待する。